

大学生生活における戦略の模索
 生物生産学部 ◆ 津田 順弘



入学おめでとう。
 これからの大学生生活に期待いっぱい、春、受験戦争の勝者としての春を存分に味わっていることだろう。

近年、政治・経済・社会の既存の枠組みや秩序が大きく変わりつつある。一九九〇年代は、国際的にも国内的にも、文字どおり転換期の様相を呈してきている。ポスターレス世界における競争原理や、

持続可能な発展のための成長原理など、繁栄を共有化する新たなパラダイムの構造が模索されているが、先進諸国の経済はおしなべて停滞色が濃く、世界を引っ張ってゆく明るい材料に乏しい。

が、今後の大学生生活、諸君の戦略によって自分に果敢に挑戦してほしい。青年期には、よく、一人前の成人期としての明確な役割が見つからない状態が続き、さまざまな葛藤に巻き込まれる自分を統合できなくなるという。

大学生生活をモラトリアムに送らないためにも、自己分析をし、長期的な戦略をもってそれらを実践する努力と積極性を持っていただきたい。

(つだ・のぶひろ)

「自重」のすすめ

学生部長 ◆ 三好 信浩



またか、なぜか……。学生の事故の報告を受けるたびに長嘆する。とにかく交通事故が多い。それに加えて、課外の部活動に関係する事故死も出ていく。命を落とした学生はさぞ無念であったであろう、近親者や学友はさぞ愁嘆にくれたであろう、思えば切なくなる。交通事故は加害者となることもある。社会的責任を背負うだけでなく、心の傷は一生癒えない。

もちろん、不慮の事故もある。しかし、注意していたら防げたのではないかと思われる事故のほうがかかるかに多

い。深夜に友人と語り合いながらドラッグすると、イッキの飲酒をするとか。

大学生になったのであるから、「自由」な生活を楽しむことは結構なことであるが、その自由には「自重」を重ね合わせないと、この上もなく不自由なことになる。高校時代に、ミルの自由論やスマイルズの自助論や、福沢諭吉の自尊論などを、書に読み話に聞いたであろう。いずれの論も、自己を大切にすると近代社会の人間観が基底にある。自重は、自己の生命や利益を守るとともに、社会の公利公益を生み出す

すという意味で、個人と社会を調和させる根本義である。

若い諸君である。学業には丹精であり、競技には勇敢であれ。しかし、事故に対してはくれぐれも臆病であつて

ものを知る喜び

附属図書館長 ◆ 藤本 黎時



新入生の皆さん、入学おめでとう。図書館は、これから始まる大学生生活の中で、皆さんにとってもっとも身近で重要な施設であり、教室を出ると必ず足の向かう場所となるだろう。

東広島キャンパスと広島地区キャンパスにそれぞれ三つある図書館に収納されている本を合計すると、二七〇万冊にもなる。図書館に初めて入った人は、書架に並んだ膨大な数の本に圧倒され、読みたい本をどのように探せばいいのか、途方に暮れるだろう。

図書館内には、学習用と研究用の本、さらに古文書等の貴重資料がいっぱい詰まっている。皆さんがまず一番利用することになる本は、学習用の本であり、これらは、探しやすい手近な書架に置いてあるはずである。また、ハイテク時代を迎え、学術情報を電子メディアによって探すこともできる。

まずは、図書館利用案内を頼りに、自分自身で館内を歩き、利用の仕方を体験するのが一番である。すぐに有効

ほしい。危険を感じたら、機にに応じて計画を変更してほしい。

諺に言わずや、命あつての物种、と。(みよし・のぶひろ)

な利用法がわかり、図書館が想像以上に素晴らしいところだとわかるだろう。

図書館内では、自分の専攻分野以外の、これまで全く関心のなかった本を簡単に手にとりて見ることがができる。知的ダイレクタントとなつて、多様な分野への旺盛な知的好奇心を養ってほしい。

レポートや論文を書くために呻吟している時、図書館の中を散策しながら書架を眺めていると、独創的な思いつきや靈感がきつと自然に湧いてくるはずである。

さまざまな本との対話によって、頭のなかで何かキラリと輝き、眼の前が急に開けてきて「ものを知る喜び」を感じることもだろう。

学問の出発点に立っている皆さんにとって、図書館はそのような体験をする場であつてほしい。

(ふじもと・れいじ)